

どういうスキルが欠けているか、 どう伸ばすか

磐崎弘貞

現代語・現代文化学系助教授

はじめに

筆者は、外国語センターに所属し、本学1年次生の授業や英語検定に関わっている。そこで得られたデータや経験を基に、ここでは、筑波大生はどのようなスキル（技能）を苦手としているのか、そしてそれをどのように伸ばしていけばいいかについて考えてみよう。

単語を知っている？「連結」の重要性

大学1年次生は、当然高校までの英語学習の影響を色濃く残している。そこで、まず問題となるのは、「使える」語彙についての誤解である。

たとえば、筑波大生ならば、ほぼ全員が「辞書＝dictionary」や「傘＝umbrella」といった英単語を知っている。しかしながら、こうした基本語でも、では「辞書を引く」「傘をさす」はどう言うかとなると、勢い沈黙してしまう場合が多い。それぞれ、use/consult a dictionary, open

put up an umbrella である。

これが「蛇口をひねる」(turn on the tap), 「テープを裏返す」(flip the tape over), 「手すりにつかまる」(hold on to the rail) あたりになれば、全くのお手上げとなる。

このような単語同士の意味的なつながりを「連結」(コロケーション)と呼ぶ。大学生の問題は、このように語彙を連結というかたまりで整理しておらず、単語→訳語という、独立した形でしか覚えていないために、使えない語彙になっていることが多いという点である。

この状況を変えるには、2つのことが必要だ。まず1つは、英語を聞いたり読んだりした際に、こうした連結を意識させることである。たとえば、

Some employees made a complaint about their boss. 「上司に不平を言う従業員が何人かいた」という文に遭遇したら、「ああ、『不平を言う』というのは、make a

complaint と言えいいのか」と意識させる。特に、こうした「動詞＋名詞」には注意する。

2つ目の対策は、英和や和英で意味や単語を調べる際、必ず連結も確認させることである。たとえば、temptation を引いて、その意味が「誘惑」だとわかって安心させてはいけない。必ず、「誘惑に負ける」(give way to temptation)、「誘惑に負けない」(resist temptation) といった連結を確認させておきたい。

発信のための表現リサイクル

次に、英語力を伸ばすためには、単純に語彙を増やすことが必要だと考える学生が多いが、これには落とし穴がある。確かに、語彙を増やすことも必要だ。しかし、上で述べたように「連結」に配慮しなくてはならない。そして場合によってはそれ以上に必要なのは、手持ちの語彙力をうまく生かして、リサイクルするスキルである。

たとえば「ふくろうは夜行性だ」と表現する場合、「夜行性」という専門語 nocturnal を知らないからと沈黙する必要はない。日本語自体の意味を噛み砕くと、Owls are active at night. (ふくろうは夜活動する) / Owls hunt at night. (ふくろうは夜エサを取る) といった表現にす

ることができる。これならば難しくない。これが、自前の語彙をリサイクルするということである。このように、難解な表現をパラフレーズするスキルは、重要なコミュニケーション・ストラテジーと考えられている。

このスキルの向上には、外国語センタールのいくつかの授業でも導入しているが、英英辞典を利用するとよい。たとえば、「夜行性」ならば、それを和英辞典で調べて nocturnal を得たなら、それを再度英英辞典で調べさせる。すると、英英辞典の定義自体が、パラフレーズ表現になっていることがわかる。

An animal that is **nocturnal** is active at night. (Longman Dictionary of Contemporary English)

ちゃんと、be active at night という、パラフレーズ表現が手に入ることがわかる。

同様の手法で、「草食の」ならば、herbivorous を経由して plant-eating grass-eating という、簡単な表現に到達できる。「楕円の」という表現も、oval の定義から egg-shaped という表現に到達できる。これならば、前者を忘れても、後方で表現できるはずだ。

また、この XXX-shaped という型を利用すると、これを「ペン型の」という表現に応用することも容易である。pen-

shaped でよい。

このように、語彙不足を補うために、大学生はパラフレーズ能力を身に付けることが重要である。

会話のコントロール

実際に口頭でコミュニケーションする場合も、問題山積である。典型的なのが、会話での沈黙である。英語でも、沈黙の効用がないわけではないのだが、日本人学生のように、いきなり、対話の途中で長い沈黙に入ってはいけな。つまり、会話についていけなくなったとしても、それを沈黙でやり過ごそうとしてはいけない。

ではどうするかというと、会話をコントロールする表現を学習させる必要がある。たとえば、以下のような表現は、すぐ口をついて出るようにしておきたい。**【相手の言っている事がほとんどわからない場合／もう一度言ってほしい場合】**

・ (I'm sorry) I don't understand you.
(おっしゃることがわかりません)

・ Could you speak more slowly? (もう少しゆっくりしゃべって下さい)

・ Can you repeat your question? (質問をもう一度言ってください)

【特定の単語がわからない場合】

・ I don't know the word XXX. (XXX とい

う単語を知りません)

・ What does XXX mean? (XXX はどう言う意味ですか?)

・ (I bought Cadbury. といった相手に対し) You bought WHAT? (何を買ったんですって) *これは、相手の文をそのまま使って、わからなかった部分に what who 等をそのまま入れるので、エコー疑問文と呼ばれる)

こうした表現を使って、相手を理解していないことを、できるだけ早く意思表示させるわけである。わからないからと言って、沈黙するのはコミュニケーションではない。しかし、わからないと述べるのは立派なコミュニケーションである。

リスニングによるインプットを重視

これは高校生はもちろん、大学生でもしばしば見逃しているのだが、リスニングによって英語のインプットをすることを軽視して入る場合が多い。これは早期に発想の転換をさせる必要がある。

これは、何も口語英語の聞き取り練習だけを重視しようというのではない。それ以外にも多くの効用があるからである。まず、第1に、多読・多聴の練習になる。リスニングを30分間すると、多少遅めのスピードでも、3千語前後の英文になる。これだけの量の英文を、読解で

やすやすこなせる大学生は、残念ながら少ない。またテープを流したままにすれば後戻りができないため、速読速解のリーディングの練習にもなる。

2つ目に、そうした英文を通して、連結の確認ができる。英単語帳を覚えるような直接的な語彙学習に対して、リーディングやリスニングを通して語彙力が身につくのを「偶発的語彙学習」と呼ぶ。リスニングにより、連結の知識を含め、偶発的語彙学習の効果が大きい。

こうしたリスニングの練習は、実はひじょうに簡単で、その場所は決してLL教室だけに限らない。登下校の際に、あるいは料理をしながら、ウォークマンを使って聞き流しをするように指導したい。ただし、その際、リスニングの内容は、本をそのまま朗読したようなものは避ける。代わりに、面白かった映画やドラマの録音、ニュースなど、内容が面白くて、かつ、だいたい粗筋が頭に入っているものがよい。つまり、既にある程度内容を知っているものを、繰り返し聞かせると効果が上がる。

複数相手とのライティング

ライティングも重要性を増したスキルの1つである。急成長を遂げるインターネットを始めとする通信分野では、その

使用言語の9割以上は英語と言われる。米国調査機関NUAによると、世界のインターネット人口は2000年2月現在で約2億7550万人、前年同期比79.5%増である。

こうしたインターネットの世界では、電子メールが大きなウェイトを占めるようになっている。そうした練習の場として、学習者同士に英文電子メールを交換させる方法がある。幸い、電子メールならば、同一内容を複数の相手に出すことも容易である。通信相手も、同じクラスの者に限らず、場合によっては、国内外の相手を選ぶこともできる。

こうした作業でお互いにコメントし合うのは、決して文法や語彙の間違いではなく、あくまでその内容についてである。読者が教師だけであった場合とは、全く状況が異なるわけである。これによって、間接的に語彙や文法上の問題を自覚したならば、改めてそれを学習させればよい。

以上、大学で伸ばしたいスキルについて述べた。このような点に留意しながら、大学生そして教員が一体となって、ツールとしての英語力を伸ばしていきたいものである。

(いわさきひろさだ 英語教育学・辞書学
専攻)